マリインスキー・オペラ

ワレリー・ゲルギエフが贈る、マリインスキー歌劇場による壮大なオール・チャイコフスキー・プログラム！

2019年春発売！

ワレリー・ゲルギエフ（芸術総監督、首席指揮者）
Valery Gergiev, Artistic and General Director

マリインスキー劇場芸術総監督、首席指揮者。ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者。チャイコフスキー国際コンクール組織委員会委員長。PMF芸術監督。「白夜の星」音楽祭、ロッテルダム・ゲルギエフ音楽祭（オランダ）、モスクワ復活祭音楽祭などの音楽祭を創設し、芸術監督、音楽監督として活躍。

マリインスキー劇場において数多くの世界的な名歌手を育成し、音楽界に送り出してきた。その采配のもとで同劇場はオペラおよびバレエのレパートリーを大きく広げ、現在では18世紀から20世紀までのクラシックの傑作をはじめ、現代作曲家の作品にいたるまで、幅広いレパートリーを誇っている。

06年には、火災に遭ったマリインスキー劇場アトリエ兼倉庫の跡地に新しいコンサートホールが完成。2013年にはマリインスキー劇場新館（マリインスキー2）がオープンした。これによりマリインスキー劇場は、ロシア国内では初となる、劇場とコンサートホールを併せ持つ複合施設へと生まれ変わったのである。

ゲルギエフは07年～15年までロンドン交響楽団の首席指揮者を務めたほか、近年は、メトロポリタン・オペラ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座管弦楽団などと共演している。

「スペードの女王」

2019年 11月30日(土) 12月1日(日) 東京文化会館

「マゼッパ」（コンサート形式）

12月2日(月) サントリーホール

舞台写真：オペラ「スペードの女王」より

主催：朝日新聞社／ジャパン・アーツ　協力：マリインスキー・オペラ友の会

ジャパン・アーツぴあ　03-5774-3040　www.japanarts.co.jp

2019年12月
来日開催

マリインスキー歌劇場管弦楽団

ワレリー・ゲルギエフが贈る、マリインスキー歌劇場による
壮大なオール・チャイコフスキー・プログラム！

2019年春
発売！

© Valentin Baranovsky/Mariinsky Theatre

マリインスキー歌劇場管弦楽団
The Mariinsky Orchestra

マリインスキー歌劇場管弦楽団は、18世紀のピョートル大帝在位中に創設され、以来ずっと、サンクトペテルブルグの地で、世界に名だたるマリインスキー劇場を拠点として活動している。これまでに数多くの世界的音楽家がこのオーケストラを指揮しており、ハンス・フォン・ビューロー、アルトゥール・ニキシュ、ウィレム・メンゲルベルク、オットー・クレンペラー、ブルーノ・ワルター、エーリヒ・クライバーや、ベルリオーズ、ワーグナー、マーラー、シェーンベルクなど、錚々たる顔ぶれが並んでいる。

めくるめくような、壮大なオール・チャイコフスキー・プログラムである。

これまでの国内における演奏史において、これほど短期間に集中してチャイコフスキーの交響曲6曲、協奏曲5曲、そしてオペラ3演目が演奏された例があっただろうか？　ロシア音楽が大好きな人にとっては、豪華な皿の数々が、目の前に並べられたようなものではないか。

オペラ「スペードの女王」「マゼッパ」はどちらもロシアの詩聖プーシキンの原作による円熟期の傑作であり、交響曲に匹敵するドラマティックな迫力を持っている。ピアノ協奏曲第2番は力強さと気品において、有名な第1番を凌駕するといっても過言ではない。ピアノ協奏曲第3番は当初は交響曲「人生」として着想された、隠れた名作だ。日頃はなかなか接することのない、こうした重要な作品群をまとめて聴くことで、今までにないスケールで作曲家の全体像を体験できるのは、何と素晴らしいことだろう。

一部が発表されている協奏曲のソリストでは、人気ヴァイオリニスト五嶋龍とともに、知る人ぞ知るピアノ界の実力者、セルゲイ・ババヤンの名前が挙がっていることにも注目したい。

ゲルギエフの解釈も深化している。たとえば、得意中の得意とする交響曲第5番について、最近のインタビューではこう語ってくれた。

「この曲に込められているのは“人生の厚み”です。生きることがあまりにもきつく、心を引き裂かれるようなことがあり、闘いもあり、ひどくエネルギーを消耗する――それでもこういう風にしか生きられない、という人たちがいる…。彼らが人生を終えようとするときに、心の中に最後の疾風が駆け巡るのです。終楽章は勝利だけの音楽ではない。人生を満喫した感じとでも言いましょうか。第1楽章のコーダは11月のように暗澹としています。希望のない暗い終わり方です。邪悪と言ってもいい」

このゲルギエフの言葉から察せられるのは、チャイコフスキーの音楽の意味をさらに深く、限りなく読み込もうとする態度である。

マリインスキー・オーケストラの状態も、10年前よりもはるかに若返り、楽器のクオリティも向上し、別物と言っていいくらいに進化している。

今回の「チャイコフスキー・フェスティバル」で、いよいよその集大成が示されるときが来るのだ。

林田直樹（音楽ジャーナリスト・評論家）

2019年12月5日（木）サントリーホール

交響曲第1番 ト短調 作品13
ロココの主題による変奏曲 イ長調 作品33
（チェロ：アレクサンドル・ブズロフ）
交響曲第6番 ロ短調 作品74

12月6日（金）東京文化会館

交響曲第2番 ハ短調 作品17
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
（ヴァイオリン：五嶋 龍）
交響曲第4番 ヘ短調 作品36

12月7日（土）昼　東京文化会館

交響曲第3番 ニ長調 作品29
ピアノ協奏曲第3番 変ホ長調 作品75（ピアノ：セルゲイ・ババヤン）
ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23（調整中）

12月7日（土）夜　東京文化会館

ピアノ協奏曲第2番 ト長調 作品44（ピアノ：セルゲイ・ババヤン）
交響曲第5番 ホ短調 作品64

主催：朝日新聞社／ジャパン・アーツ　協力：マリインスキー・オペラ友の会

2019年2月 詳細発表！

ジャパン・アーツぴあ　03-5774-3040　www.japanarts.co.jp